

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 マーガレット)

事業所番号	0673200341		
法人名	株式会社 MSC		
事業所名	グループホーム燦燦		
所在地	山形県飽海郡遊佐町遊佐南大坪12番地1		
自己評価作成日	令和6年 6月 12日	開設年月日	平成27年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ5類後も、規定を作ったの対応となっていますので、ご家族との面会、通院時などご家族との時間を大切にしております。施設内でも、利用者同士の同世代の方々との交流の時間を大切にしております。残存機能を生かし、洗濯物たため・洗濯物干し、食器拭きなどの役割をもって生活してもらっています。精神的に落ち着いた生活が出来るような雰囲気づくり・自分のペースで過ごせる環境作り力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和6年 7月 23日	評価結果決定日	令和 6年 8月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりを大事にしてきており、コロナ禍で自粛せざるをえないもどかしさを感じていたが5類になり徐々に回復しつつあり、季節のドライブや祭り見学の外出、文化祭など地域行事参加等を再開しています。食事は3食手作りにこだわり「おいしい」との声が聞かれ、春のわらび採りでは大量の収穫に利用者は下処理を手伝いながら昔話に花が咲き、また食することで笑顔が見られています。家族等とは毎月広報紙・担当職員と管理者から写真付きのコメントで様子を知らせ、往診後には看護師から健康状態の詳細な報告をして、意見交換しながら安心と信頼関係に繋がっています。利用者の思いの把握は2ユニット職員全員で関わり、情報共有を密にして近い存在でありたいと全体で見守っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症対応型共同生活なので、認知症を理解してケアにあたり、職員間での情報共有に努めています。外部研修に参加し、内部研修にて統一したケアが出来るようにしています		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は夏祭りや行事への地域の方々が参加されておりましたが、コロナの影響があり施設内での行事を工夫しています。最近では少しずつボランティアの受け入れも行っております		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、中学生の職場体験は受け入れをしておりません。事業所の広報を回覧出来るようにし日頃の様子や活動を知ってもらえるように心掛けております		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、行政、地域包括センター、地区長、民生委員(家族代表)の参加にて開催し事業所の状況報告や課題について話し合っています		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密にするように心掛けております。困難事例については、町や地域包括支援センターへ相談しております。日頃から相談、協力が得られる関係となっております		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束指針について学び正しく理解しています。利用者の状態を考慮し玄関に鍵を掛けない工夫や取り組みを行っています。やむを得ず施錠しなければいけない状況の場合は運営推進会議の場で話し合っています。眠りスキャン、足元センサーを使用している方は記録に残しています	「身体的拘束等の適正化のための対策検討委員会」を組織しており、職員は会議や内部研修で何が身体拘束に当たるか学習して共有し、運営推進会議で報告もしている。全居室に「眠りスキャン」を設置し、パソコンの画面で動きが一览出来て安全な暮らしを見守り、心拍・呼吸数は1ヶ月分をデータ化して主治医に提出して受診時に役立たせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修では虐待や不適切ケアについて話し合い日々防止に努めています。不適切ケアと感じたら、注意しあえる関係作りを目指しています	職員は外部・内部研修で虐待について学び早期発見・早期予防に努め、検討委員会も組織している。特に言葉遣いで気になった時は早い段階で申し送り時などに管理者を中心に職員同士で話し合い、統一したケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	行政や地域包括支援センター、家族や本人と話し合い、必要に応じて提案、活用出来るように支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に担当ケアマネを通し、施設の内容や料金について話をしています。まず契約や解約時、変更事項があった場合は文書をもとに分かりやすく説明し理解を得ています。コロナ感染状況をみて施設見学を実施しています		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者の希望、意向等を聞き日常生活や行事へ反映させるようにしています。家族アンケートを定期的実施し支援に反映させています。毎月利用請求書と一緒に生活の様子を伝え、日々の写真を添付し元気な姿を見て安心していただき、信頼関係を築いています	利用者にとって入居後も家族等は一番近い存在として関係性を大事に考えサポートしており、面会も可能となり利用者の喜ぶ顔が見られる。事業所から毎月広報紙と担当・管理者から写真添付のコメントで利用者の様子を知らせ、往診後には看護師から電話で報告を行い意見交換している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りなどで意見や提案を聞き反映させています		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務状況を見たり職員会議へ出席し、研修や行事の報告等により状況や実績を把握しています。年に1回以上の面談を設け、日々聞けない意見や要望を聞き、職場の環境や条件の設備に努めています	法人代表は常に現場に足を運び、職員の日頃の努力や勤務状況を把握しており、年1回自己評価を基に個人面談し意見・要望を聞き取りしている。管理者は職員の得意分野を発揮出来るように委員会活動や行事担当の人選をし、シフト希望・有給休暇取得・急な勤務交替などの働きやすい就業体制を整えている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実績と力量を把握したうえで、研修を選び参加出来るようにしています。研修へ参加した職員は職員会議で資料を作成し伝達研修を行っています	2ヶ月毎の職員会議では内部研修と利用者全員(2ユニット)のカンファレンス(検討会)を行い全職員で共有し、申し送りも合同で行っている。外部研修には得意分野や段階を考慮して管理者が声掛けし、受講後は伝達研修で全員で共有している。資格取得には法人から助成制度もあり奨励している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し研修会や交換実習等、積極的に参加しています。他施設への行事参加は行えていませんでしたが情報交換をしネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。地域の多職種連携研修会へ参加し情報交換をしています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と面談を行い身体状況や生活状況、困っている事、要望について聞き安心して生活が出来るよう関係作りを築いています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事、どのような暮らしをして欲しいかなど意見や要望を聴き取り、家族等の立場を理解しながら把握に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き、どのような支援を必要としているかを見極め、サービス利用につなげています		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の第二の家になれるように利用者信頼関係を築きながら掃除や洗濯物干し、衣類たたみ等、経験してきたことを活かしてもらえるような環境を整えています	思いをなかなかことばで表せない利用者からは普段の表情や、入浴などの職員と1対1でリラックスした時に出る本音を大事にしている。半年毎に担当職員が聞き取り調査を行い、新たなアセスメント(情報収集)を全職員で共有して利用者の希望するペースで生活出来るよう支援している。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族が一番近い存在となるよう、日々の生活の様子や施設内行事を手紙や広報、電話、面会時に伝えてます。ここ数年はコロナの感染対策として行事への参加は中止していますが、少しずつ行事へ参加して頂き、交流を深めていただきです		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも落ち着き5類となり、少しずつ町の行事にも参加しております。町の広報を見ながら、行事にも参加し、町の出来事などを会話の中で伝えていきます。町のわらび園にわらび取りにも行きました。参加できない利用者様にもわらびの頭取りをしてもらい皆さんで食されました	コロナ禍で自粛していたが、季節のドライブや祭り見学の外出、文化祭など地域行事参加等も徐々に再開して利用者に喜ばれている。家族等や友達と急に会いたくなった時には写真などで話題を広げたり、電話を活用して安心感に繋げ、これまでの関係継続を大事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、洗濯物をたたんで頂いたり、塗り絵や作品作りを通して利用者同士の関りを深めており、孤立する事がないように職員が間に入りスムーズに交流が出来るように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所申請の際や申請時、意見書を提出しています。契約が終了した場合でもご本人やご家族の相談に応じ支援を行う用意があります		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を傾聴し、意向の把握に努めています。センター方式を使いアセスメントを行っています。困難なケースは申し送りや会議等で意見交換し情報共有に努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や生活の中で、生活歴や馴染みの暮らし、環境等についてご本人やご家族に聞くことで把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットや個人ケースへの記録、特変時には申し送りで各職員が把握したり、看護師に相談し、ユニットノートに記入する事で職員全体が一人一人の状態把握に努められるようにしています		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ご家族より支援方法や過ごし方への意向を聴き取り、介護計画書を作成し毎月のモニタリングにて状況を把握し課題や支援方法を見直す事で現状に合った介護計画書の作成に努めています	利用者から思いや希望を聞き取り、日頃の生活の中で楽しそうにしている表情から興味や得意分野を引き出し、発揮出来るような介護計画を作成し、家族等や主治医の意見も取り入れている。職員会議や申し送りは2ユニット合同で開催して利用者全員の情報を共有し、定期的な見直しに繋げている。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート、ユニットノートに記録し情報共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしています	業務日誌・ケース記録・申し送りノートはタブレットや手書きで記録し、職員は出勤時に申し送りノートに必ず目を通してから業務に就き、情報共有に努めている。「状態チェック及びケース記録表」は時間毎に記録して利用者の健康状態を把握している。朝の申し送り時は日勤者と看護師合同で記録の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等は基本的には家族対応となっているが、突発的な通院依頼やご家族の予定が崩れ通院不可となってしまう際は、ご家族へ説明し施設の通院援助を利用して頂く事でご家族への負担軽減を図っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が今まで住み慣れた地域との交流を図りながら過ごしていけるよう支援をしております		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する病院に引き続き受診が出来るように支援しています。受診時は日々の情報をまとめて提出しています。受診が困難な利用者に対しては協力医や主治医による往診で対応しています		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日利用者の状態を把握し、情報や気づきを申し送り、看護師へ報告、相談をして適切な伝達が出来るようにしています		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には定期的に病院側と情報の交換や相談に努めています。退院時には病院との情報共有やサマリーを確認し、不明な点は問い合わせを行い、退院時もスムーズに対応出来るように努めています	緊急搬送や主治医の判断で入院となった時は家族等・医療機関・事業所で連携を図りながら情報交換している。期間を決めて居室を確保して退院後はフォロー計画でサポートし、長期となった場合は家族等と今後を協議している。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書をもとに説明を行い、理解を得ています。重度化した場合はご家族や医療機関と話し合いを行い適切に対応しています（当事業所は看取りは行っていません）	重度化した場合の対応について入居時重要事項説明書に明記の指針により説明して、看取りは行ってないことを伝えて本人・家族等の理解を得ている。食事が摂れない、常時医療行為が必要になってきているなど重度化の段階に応じてかかりつけ医・家族等と話し合いを持ち、以降の介護方針や入院・他施設の検討をしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は消防署より講師を呼んで救急救命講習を実施していましたが、コロナ禍になってからは密を避けるために実施出来ておりません			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難できる方法を全職員が身に付けています。デイサービスや近隣とも協力体制を整えています。消防の指導もその際に受けています。防災頭巾や食料、水、トイレなどの備蓄も行っています	年4回、日中・夜間想定避難訓練を行い、火災等の災害時に利用者を安全に避難誘導出来るかを訓練行動を通して繰り返し確認している。実施後に反省点や課題等を話し合い次に活かしている。地域への協力依頼や防災用品、備蓄の確保を常日頃より行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴をふまえ自尊心を傷つけない対応をしています。利用者の接遇については申し送りや会議で話し合いを行い、個人指導も行っています。不適切ケアだと感じたら注意し合える関係づくりを目指しています	利用者のこれまでの生活や仕事、趣味や思いを入居時や半年毎に確認して一人ひとりの情報を職員全員で共有している。その人のこだわりや生活での張り合いを尊重し、言葉遣いや接し方を通して信頼関係を築けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心、安全に共同生活が送れるように一人一人と向き合い、自己決定が出来る雰囲気作りに努めています。食事や誕生会メニュー等、ご本人が食べたいものを聞き、献立に取り入れています。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合を優先せず、利用者一人一人の体調を見ながら希望に添い、その方のペースで過ごせるように支援しています	一人ひとりの健康状態を把握しながら出来ること得意なことを生活の中に取り入れ、その日の気分や希望に合わせて自分のペースで過ごせるよう支援している。自己決定出来るよう働きかけ、利用者本位の支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、二カ月に一度希望者や必要と思われる利用者には散髪して頂き、身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員がローテーションで作成しており、利用者へ食べたいものを聞き、献立に取り入れています。季節感のある食事を提供し定期的に出前もとり、利用者大変喜んで頂いています。調理の手伝いや食器拭き等も手伝って頂いています	利用者のリクエストや旬の野菜や魚を取り入れたメニューを考え食材の買い出しを含めて職員が3食手作りで提供している。春に利用者が収穫したわらびや差し入れの孟宗、自分たちで作った笹巻き、季節毎の行事食、出前など食事が楽しみとなるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態で栄養バランスを考慮し提供しています。一日の水分摂取量や食事量を把握し、メニューの代替も行っています		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つようになっています。出来ない所は介助にて口腔内の状況もチェックしています	うがいや歯磨き、義歯洗浄等を毎食後行ってもらい、困難な方には介助することで口腔内を清潔にして毎日生活出来るようにしている。咀嚼や吞み込み、口臭、口腔内の状態チェックにより嚥下機能低下や歯周病等の予防に努めている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表にて一人一人の排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導にて自立に向けた支援を行っています。排泄の失敗が多く見られる時は職員間で話し合い工夫し対応しています	一人ひとりの排泄パターンを捉え適時に声掛け・誘導し、見守りや介助、状態観察によりトイレでの排泄自立に繋げている。失敗等が多く見られた時は皆で話し合い自尊心やプライバシーに配慮した支援方法を検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、毎日ヨーグルトや牛乳などを提供したり、水分量をチェックしています。レクで軽体操や天気の良い日は散歩等し適度な運動も心掛けています		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて週2～3回の入浴を実施しています。一般浴と機械浴があり、その方のADLにあった入浴方法で、安全に入浴を行っています。入浴の時間はなるべく利用者の希望に添った形で対応していますが、体調を確認しながら行っています。入浴に対する拒否等が無いよう声掛け等を工夫しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごせるような環境となっています。シーツやタオル類はリネン業者の物を使用し常に清潔を保つようになっています。居室の温度や湿度に気を付け、快適に休めるように支援しています。安眠できるように声掛けを工夫し対応しています		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更時は処方箋を確認し、変更後の体調の確認をしっかりと行っています。向精神薬など取扱注意を要する場合は申し送りや会議等を通して情報共有しています。誤薬が無いように職員が二人で必ずチェックをし手渡しにて服用まで確実に見守りを行っています	薬専用ロッカーで管理し、誤薬のないよう配薬・服用まで複数職員でチェックしている。一人ひとりの薬の目的・副作用について理解し、薬変更時は体調等の観察に努めている。特に向精神薬服用に際しては申し送りや会議等で情報を確認共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、その方に合った役割や楽しみの提供を行っています。役割を持つことで自信を持つ事ができ、生きがいを感じられるように支援しています。出来るだけ利用者間でのトラブルがないように工夫しています		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ後はソーシャルディスタンスを心掛けた外出支援をしています。密を避けたドライブや散歩等で外出の機会を設け気分転換を図っています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にご本人、施設でのお金の管理は行っていません。日用品や必要な物はご家族へ連絡し持参して頂くか家族が遠方の方は施設で立て替え、買い物支援を行っています。必要に応じ社協の金銭管理援助事業を利用しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば利用者ご本人が自由に電話をかけたり、受けたり出来るようにしています。繋がりを大切にしていけるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはゆったりと落ち着きのある空間となっており、ソファでテレビを見たり、横になったりと居心地よく過ごせるように工夫しています。壁などは季節感を感じられる装飾を心がけております	共有部への手すり設置で歩行時等の安全を確保し、毎日の掃除により清潔さを保ち、温・湿度管理や換気で快適に過ごせる空間となっている。季節の装飾や行事での写真を飾ったフロアでは広いスペースの中で利用者がテーブル席やソファでお茶を飲んだり利用者同士で話をするなど、思い思いにゆっくり過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファなど、自分の好きな場所でゆったりと過ごされています。各ユニットで行き来出来るようになっており、気の合う利用者間での談話を楽しんでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し自宅で使い慣れた物やご本人が使用していたものを持参し、環境が変わっても安心して過ごせるように工夫しています	使い慣れた寝具やテレビ・椅子等を持ち込み自宅と同じような寛げる居室となっている。家族等の理解を得て全室に「眠りスキャン」を設置して就寝時の状態確認や離床等に対応し、また必要な方にナースコールや足元センサーを利用することで安心・安全な生活に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、車椅子でも安全に過ごせるように広いスペースを設けております		